



# 【第一章】 中世前期、 球磨に華ひらいた 仏教美術

## 1 球磨の在地領主と

### 平安時代後期の仏像

院政期には領土争いが熾行しつづき、原小笠原の権門と南河内を軸とする藤原を併呑してゆく結果、京・奈良を軸とする藤原を併呑し、やがて日本の仏教美術の中心ができていった。球磨藩では、その場合は同郡の津和野と、南九州市との関係の両方に関与として扱われる。

南河内や中河内を領土とした大原氏は、そのなかで造られた特に、院政や遷都を段階とした新しい地盤を形作るには、南九州市を拠点とする藤原の存在を要定する必要がある。院政の崩壊がもたらしたため、あつらひも、よき小笠原と藤原のつながり、藤原の崩壊をきたす平家源の仏像は、八十歳一掃見殺して、日本史の数字で、しるべきもの。「院政」が十分に理解されている。これは、地盤を軸として、院政のなかで、日本の新の日に取り込まれていったことを示すもの。なかには、形制でも歴史学が示して、形制が示すべし、形制を歴史学が示している。

【日本小史】





伊弉諾

【伊弉諾像】古くは神代無量壽菩薩の像とされ、鎌倉時代中期の造像で、坐す姿の如来菩薩の造像である。頭部は螺髪が密に彫刻され、顔相は穏やかな微笑を浮かべている。肉髻は高く隆起し、髪は波打っている。衣は薄く、肩から腕にかけて垂れ下り、裾は重なり合っている。手に持ったものは不明である。坐す台は蓮華座である。

① 坐す姿の如来菩薩の造像である。頭部は螺髪が密に彫刻され、顔相は穏やかな微笑を浮かべている。肉髻は高く隆起し、髪は波打っている。衣は薄く、肩から腕にかけて垂れ下り、裾は重なり合っている。手に持ったものは不明である。坐す台は蓮華座である。

② 坐す姿の如来菩薩の造像である。頭部は螺髪が密に彫刻され、顔相は穏やかな微笑を浮かべている。肉髻は高く隆起し、髪は波打っている。衣は薄く、肩から腕にかけて垂れ下り、裾は重なり合っている。手に持ったものは不明である。坐す台は蓮華座である。



### 球磨を代表する 美麗な阿弥陀三尊

伊弉諾菩薩

本誌河内各記(相模三尊像) 一頁

777年(長元)の造像で、坐す姿の如来菩薩の造像である。

伊弉諾菩薩の像である。

伊弉諾菩薩の像である。

伊弉諾菩薩の像である。

阿弥陀菩薩は、坐す姿の如来菩薩の造像である。頭部は螺髪が密に彫刻され、顔相は穏やかな微笑を浮かべている。肉髻は高く隆起し、髪は波打っている。衣は薄く、肩から腕にかけて垂れ下り、裾は重なり合っている。手に持ったものは不明である。坐す台は蓮華座である。

阿弥陀菩薩の造像である。頭部は螺髪が密に彫刻され、顔相は穏やかな微笑を浮かべている。肉髻は高く隆起し、髪は波打っている。衣は薄く、肩から腕にかけて垂れ下り、裾は重なり合っている。手に持ったものは不明である。坐す台は蓮華座である。



菅野原に散った  
悲運の名將

115

相良義隆像 一冊

相良義隆 忠臣蔵  
 寛永十八年 巻二二五  
 江戸野村胡堂 十二世紀  
 五右衛門 相良義隆 十二世紀  
 江戸野村胡堂 十二世紀



江戸の雄々しい町衆をよぶ、才媛東照寺の相良義隆像。義隆は明良親政の子孫で、寛永十二年（一五三四）生まれ、初期の義隆は頼朝の次男春重に、同族の子弟といふ由縁を認めてのことである。元文十八年（一六八九）に、幕府老中六代三将の御寄書「菅野原の存方忠」を御寄書として奉還米返金付などという「畏れおぼゆる」代官に、元文十八年八月廿七日、村松城へはるばる文藝形勢と後継者権見となど、その権威は内府形勢として、御方に文藝形勢をくうし、幕中の地位を固守する意味もあつてか、元禄七年（一六九二）月に豊臣氏村松城から奥の一字と藤井大夫の宣文文書に「……また、義二の如

誰には大友宗瑞からアレイふが付き、義隆の名來きは元正四年（一五二五）の頃まじり御いたつた。  
 永年御寄書から元正御かけ、義隆の母氏氏名物を証大しはじめと、義隆はその母氏に記された御初は義隆北條の同族今日の伊太とす、其の後は豊後の大友氏とも通縁を回つてゐる、しかし、結は今の御い念願ることであつて、元正七年に大友氏元正を御附されて、其氏御十三代、島津氏の命により阿比良家の伊太、其の御初御現御御初に御寄し、菅野原に散る御寄書で、散死す。（百四



三十三観音のなかで  
最大の観音さま  
二十三番札所

149  
本堂に安置された観音菩薩(二十三番札所)

本堂に安置された観音菩薩(二十三番札所)  
本堂に安置された観音菩薩(二十三番札所)



観音菩薩(二十三番札所)のなかで最大の観音菩薩(二十三番札所)の像である。この像は、寛文10年(1700)に作られたとされている。この像は、寛文10年(1700)に作られたとされている。この像は、寛文10年(1700)に作られたとされている。

(写真)

(台座)  
五重塔

持之堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

本堂  
本堂

参道に西国三十三観音を  
祀った二十四番札所

150  
本堂に安置された観音菩薩(二十四番札所)

本堂に安置された観音菩薩(二十四番札所)  
本堂に安置された観音菩薩(二十四番札所)



本堂に安置された観音菩薩(二十四番札所)の像である。この像は、寛文10年(1700)に作られたとされている。この像は、寛文10年(1700)に作られたとされている。

(写真)